

参加

メンバーの

感想文

第8回チア東北ボランティアより
(2012年7月の記録)



■ 仙台・宮城野区にて

つていました。でも、「反省しつづ、もう一度、行って東北の人たちに神さまの愛を伝えなさい」ということを示されました。

前回は初めてのボランティアだったということで、正直自分から積極的に動けなかったという事を感じました。だから今回は自分のできる事を見つけて積極的にやろうと思いました。やっぱり自分から積極的に被災者の皆さんに話しかけたりしていくと、今

こういう生活をしているとか、これが必要だとか色々話して下さいました。震災にあつてから1年以上が過ぎて、自分たちは何もな

かったように生活していますが、東北の方々はまだまだ大変な中にいるように感じました。

そんな中でも、笑顔で自分に接して下さったり、話しかけて下さる姿を見て、とても感動しました。中には「本当

にこれはキリストさんのおかげやー」なんて言ってお下さる方もいました。

今回のボランティアの中で特に印象的だったのが、釜石で支援物資を配った時でした。支援物資を配る場所に、大きな大漁旗がいっぱいあって、自分たちを歓迎して下さいのを見て感動しました。物資を配り終わった後、釜石の皆さんがご飯を用意して下さい一緒に食べました。煮物やその日の朝、釜石で獲れたイカなど、すごく美味しかったです。

食事が終わった後、たくさんの風船にそれぞれメッセージを書いて飛ばしました。飛ばした先に虹が出ました。聖書に出てくるノアの話の思い出し、チアが今まで築いてきた東北の方々との良い関係がこれからも続くという神さまからの約束に感じました。

● B君(14)

今回ボランティアに参加して最も印象に残ったのは、物資配給の際、被災地の皆さんが、神さまに心を開いていたことです。特に、ボランティア最後の日の若林区では、神さまの事をまったく知ら

なかった人たちに、僕たちを通して神さまの素晴らしさを伝えられた、と生で感じられて良かったです。

被災地の現場を何十回と見ていたら、最初見た時のインパクトとはだいぶ感覚が違い、軽く受け止めてしまします。今までも作業はものすごく頑張れたと思いますが、被災地の方と共に喜び、泣くことができたか、と問われると、僕はいつもその難しさに直面していました。

● A君(14)

今回チアを通してボランティアに行ったのは2回目でした。前回のボランティアで、被災者に対する態度で注意されて迷惑をかけたので今回は行こうか迷





でも今回、1人1人が祈る気持ちで被災地の方と接して、作業ができて本当に良かったと思います。特に泥かきの作業をさせて頂いた家の方が、涙を流して喜んで下さった時は、すごく嬉しかったです。

人間は自己中心になりがちです。少なくとも僕はそうです。だけど、今回、少しでも、前よりは祈る気持ちでこの1週間を過ごせたと思いました。

これまで5回のボランティアを通してものすごく成長させてもらったと、感じています。それほど充実していて良かったです。1年数ヶ月にわたつてのボランティアは、これまでの人生で、一番、僕を成長させる体験となっていると思います。

● Cさん(13)

今回ボランティアに初参加させていただき、とてもいい経験になりました。

最初に見学に行った場所は、道の駅が津波でポロポロに壊れていて、コンクリートがはがれていたり、電線がちぎれていたり、野球場のライトが倒れていたりして、私は、こんな辛い、悲しい思いをした人たちにどのように接したらいいのか分からなくなりました。

でも、その後の物資配布の時に、被災地の皆さんがとても明るく、笑顔で、とても力強い方々だなーと思つたし、物資を渡す時に、「ありがとだね」暑いのに「ごろうさま」と言つて下さつて、すごくうれしかったし、すごく励まされました。

虹がかかっていました。今思い返してみると、神さまが約束の虹を見せるために風船を飛ばすシナリオをつくつてくれたのかな、と思います。

泥かきはみんなが泥まみれになつてやついて、私も頑張らなきゃーと思つて一生懸命やりました。

最後の2日間は栃木で丸森の伝道チームと一緒に過ごしました。私は昼ご飯番でトラクト配布には行かなかつたけど、すごく暑いキッチントラックの中で百人近くの食事を作つても疲れませんでした。でも、丸森の方たちはこれを毎日やつているのだと思うと、本当に尊敬します。神さまの栄光のために頑張っている姿はなによりも輝いていました。

今の生活は当たり前ではなく、神さまの恵みによるものと改めて知つたので、これからもそれを忘れないで感謝して、また今回学んだ「喜んで仕える」ことを日常生活でも実践できるようにしたいと思います。

● Dさん(14)

今回で3回目のボランティア参加で

した。実はボランティアの申し込みをした時、もう満員で、落ち込んでいました。でもお母さんに、「きっと神さまは最善をなして下さるからお祈りしたら」と言われ毎日お祈りしました。ボランティア5日前、「1人空席が出たのでボランティアに行けます!!」と言われ、本当に嬉しくなり改めて祈りは聞かれるなと思いました。

今回のボランティアは前回の反省として、何の目的で来ているのかを考え、パスの中では変に盛り上がりたくないとか被災者の気持ちを考えるとか恋バナをしないと思ひ、祈りながら毎日過ごしました。

また、肉体的にも、精神的にも、自分なりに最善を尽くす事ができました。また、今回初めて、グレイプシティ社に残り、みんなのために料理を作つたり、掃除をする訓練もしてもらえました。

震災が起きた時、「なぜ神さまはこんな事をしようとしたの?」という疑問でいっぱいでした。しかしその答えが東北ボランティアに行くにあたってだんだんと分かつてきました。初めて参加した10月のボランティアから帰つてきた時、

中でも印象的なのは、釜石に物資配布に行つた時のことで、釜石の皆さんが風船を用意して下さい、そこにみんなでメッセージを書いて空に飛ばしました。みんなで風船をたどつて顔を空に向けてると、そこには

与えられたみことばがヨハネ13:7「わたしが行っていることは、今はあなたにはわからないが、あとでわかるようになります」でした。その時から、「何かの意味があるんだな」と東北の事を思っていました。今回参加して少しですが震災が起きた意味が分かった様な気がします。

それは東北の人たちに神さまの事を伝えられた事です。この震災がなければ勿論、私は東北に行っていませんし、神さまの事を伝える事もできなかったと思います。しかし震災を通して神さまは一つ一つを意味あるものとし、神さまの事を伝える機会を与えてくれました。

また、釜石市では沢山の感動を与えて下さいました。支援物資を配りに行った時まず驚いたのは沢山の漁旗が飾られていたことです。大漁旗を飾ってくれるほど、私たちのことを想ってくださり、また、それができるほど、今、元氣になっておられるんだな〜と思いき嬉しくなりました。

また、物資配給の時には釜石の皆さんが助け合っている姿に感動しました。



ほとんどの人が「他の人もいるから私はこれだけ!」と言って必要最低限を受け取っていました。

配給後は釜石市のおばさんたちがチアのメンバー全員分、作って下さったお煮しめとおにぎりをいただき、とても美味しく本当に幸せでした。また、沢山の風船にそれぞれのメッセージを書いて2セット、空に飛ばしました。飛ばしてしばらくしたら神さまからのプレゼントで約束の虹がかかりました。本当に感動しました。

やはり今回の震災は意味あるものだったんだと改めて感じました。クリ

スチャンとして東北の人たちの事を祈りして行きたいなと思ったボランティアでした。

● Eさん(13)

私は2回目の参加で、前回行った地区へも行く予定だったので、どうなっているかなあ、というぐらいの気持ちでした。被災地に着き、10月と比べるとだいぶ片づいていましたが、メチャメチャになった車や、破壊された建物がリアルに残っていたり、家がたくさんあつた街が巨大な原野になっていたりして、復興はまだまだ先なのか、と思いました。

震災後、たくさんの方が自分で命を絶つたというニュースを聞きました。このような震災が起こり、どんなに絶望されたかと思うと、私たちに任されている宣教の使命がどんなに大切な事かを知らされました。「キリストさんが今でも私たちを助けに来てくれている」と言っておられる被災者の方々とお会いしました。そのような思いの方は、他にも、大勢おられるのだそうです。それを耳にした時、クリスチャンがこの

世に、影響を与えられたんだなあと思動しました。帰りのバスの中で、ある子が証していました。「あるおばあちゃんのところへ荷物を持っていった時、その人が十字架を誇らしげに見せてくれました。『家を直してくれたサマリタンズ・パースの方に作ってもらったんです。今でもキリストさんに助けてもらっているんです』と言っていました。私はそれを聞いて、本当に感激しました。東北の方々が福音に心を開き、受け入れているのを実際に体験することができて、神さまの力だと確信でき、心から神さまを賛美しました。今まで丸森の皆さんをはじめ、多くの伝道者の方々が東北に蒔いた福音の種が、今になって芽を出してきているんだなあ、蒔いた種は決して無駄にならないんだなあということ学ばされました。

● F君(15)

僕が今回のボランティアに行くきっかけになったみことばがある。ピリピ2:10、11「それは、イエスの御名によつて、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが、ひざをかがめ、すべて

の口が、『イエスキリストは主である』と

告白して、父なる神がほめたたえらるるためです」。今回の目的は、イエスママが主であることを被災地の人々にも知ってもらったためだということが分かった。僕の行動、態度、言動を通してイエスママを証しできたらいいなと考えていた。

神さまは、僕の祈りを聞いて下さった。それは若林地区で物資の配給を行っている時であった。物資を受け取りにきたHさんの車がバンクしてしまい、重たい物資を私たちで運ぶことになった。自宅に着くと、Hさんが私たちに見せたいものがあると、何かを持ってきた。見た瞬間、驚きのあまり立ちつくしてしまった。なんと、木でできた十字架が、Hさんの両手の中に大切そうに置かれていた。「キリストさんが1年経った被災地の私たちを助けてくれ、キリストさんに私は助けられた」とHさんは笑顔で話してくれた。まさしく上述のみことばの成就ではないか。被災地の方々がイエスキリストの名を呼んでいる姿に、僕は感動した。神さまが今回、宣教の学びを僕に教えて下さったこ

とを、感謝します。

● Gさん(15)

2回目の参加です。高認試験の1週間前で迷いました。また、前回の自分の失敗もあり、ためらいました。前は「可哀想だ」と思っただけで、本当のお気持ちはよく分かっています。でも6月、大好きなおばあちゃんが天国に行き、悲しみの中の被災者の方たちの気持ちが少しだけ分かった気がしました。また、「良い方である神さまがすべてのことを益として下さる」と信じる「ことも教えられ、「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」のです。しかし…宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう」(ローマ10:13、14)らの聖句も示され、神さまにゆだねて参加を決めました。そう決心したら神さまが道を備えて下さいました。心配だった試験勉強も、チャサポートスクールの先生が調整してくれ、勉強が進みました。バスの中に勉強席が準備してあり、宿舍でも勉強できま

した。

ボランティアにはたくさん恵みがありました。初日に泊まった大船渡の教会での早天礼拝のメッセージでも励まされ、釜石では、物資を家に運ぶ手伝いをしたおばあちゃんから、津波がどれだけ大変だったか聞けました。おいしい昼食、虹……。釜石の皆さん、そして、神さまが準備して下さいましたサプライズに、すごく感動しました。宮城野区のKさん宅で泥だし中、Kさんが泣きながら感謝してくれて、「こんな自分が少しでも役に立てた。本当に来て良か

つたな」と思いました。

また、今回は泊めてもらったワインスタジオで掃除や料理などを教えてもらいました。朝5時過ぎから朝食の準備をし、みんなが泥だしに出かけてからは、泊めてもらった部屋、トイレ、スタジオなどの掃除と晩ご飯の準備などハードでした。でも、教えてくれたアンナさんは常に走っているような忙しさで、その中で私たちを指導してくれて感謝でした。母の大変さも分かりました。

5日目と6日目は栃木で丸森の夏期伝道チームに合流しました。丸森のティーンたちと良い交わりができ、友達にもなれて、川をお風呂代わりにしたり、キャンピングカーで寝たり、暑い中トラック配布をしたり、貴重な体験もできました。将来伝道地に行く時が来たら、この経験がとても役に立つと思います。

行く前は、不安がたくさんありましたが、「良い方である神さまに委ねる時にすべては益に変わる」ことを実際に体験できたボランティアでした。

たくさん恵みを受け、神さまと、努力して支えて下さった皆さんに、心から感謝しています。

